令和5年度 もも病害虫防除暦

ながのブロック 飯綱地区

特 散 水 98 g カイガラムシ類 ハダニ (アプラムシ類) パダニ (アプラムシ類) 発芽前 の反星病の発生圏では、冬期剪定時において枯れ枝やミイラ果の付着している 枝は剪定して提却する。										なかのノロック 販網地区
株 数	散布時期	FRAC	薬剤名	薬剤量	倍率		* 太字は重点	使用	使用	主な作業と注意事項及びドリフト対策
発芽的	特散		水	98 &			ハダニ			枝は剪定して焼却する。 〇無風の時に枝先から丁寧に散布する。
16 アプロードフロアブル 100 m2 1,000 m2 1,	発芽前	_	スプレーオイル	2 2	50 倍	350 ₤		発芽前	_	
1		16	アプロードフロアブル	100 me	1,000 倍			14日前まで	3回以内	
### 1	月日									
### 1										
芽出し直前 月 版者剤(マイリケー) 石灰硫黄合剤 5 m2 20,000 倍 14 g 7 倍 350 g 発芽前 一 発芽前 一 2 開花始め (1~2輪咲) 月 水 展着剤(アピオンE) 97 g 50 m2 2,000 倍 50 m2 2,000 倍 50 m2 2,000 倍 50 m2 2,000 倍 7 が 展 世ん孔細菌病 33 0 g 世ん孔細菌病 (アピオンE) ウケムシ類の発生が心配される圏ではチューンナップ顆粒水和利2,000倍(50g・前日まで)を特別散布する。 10ボルドー412とは混用しない。 3 落花直後 月 水 展着剤(アピオンE) 3 kg 50 m2 2,000 倍 50 m2 2,000 倍 60 日前まで 世ん孔細菌病 (アプラムシ) (カメムシ) ハモグリガ 前 日まで 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 ○ 予備摘果は出来るだけ早めに始め仕上げ摘果の倍量を残す。 〇アグレブト水和剤は関花直後のぶどう園の周囲では散布しない。 また、収穫前使用時期・散布回数(2回以内)に注意する。 〇アブリント水和剤は関花直後のぶどう園の周囲では、カララDF2,000倍(50g・14日前) を加用する。	1		水	86 ₽						を散布しても良い。その場合は散布時期が異なるため注意する。
月 日 ウコスカシバの発生が多い園では、フェニックスフロアブル500倍液(200mℓ・開花期まで)を地際部から地上1m位までの樹幹および主枝に散布する。 2 水 97 ½ せん孔細菌病 〇ケムシ類の発生が心配される園ではチューンナップ顆粒水和剤2,000倍(50g・前日まで)を特別散布する。 1 (アピオンE) 50 mℓ 2,000 倍 350 ½ せん孔細菌病 〇ケムシ類の発生が心配される園ではチューンナップ顆粒水和剤2,000倍(50g・前日まで)を特別散布する。 1 (ローン 2輪咲) M1 ICボルドー412 3 kg 33 倍 サム ス 期間 1 (ローン 2輪咲) 水 期間 関係 サム ス 期間 ログラームシの (アプラムシ) (カメムシ) (芽出し直前		展着剤(マイリノー)	5 mℓ	20,000 倍	350 ₤				〇せん孔細菌病対策として5回目の防除まで展着剤はアピオンEを使用する。
2 水 97 & 2,000 倍 350 を 350	月日	M2	石灰硫黄合剤	14 ₽	7 倍			発芽前	1	
2 水 BR着剤(アピオンE) 50 m² 2,000 倍 350 ½ 350 ½ - - またはバイオマックスDF2,000倍(50g・前日まで)を特別散布する。ICボルドー412とは混用しない。 1 (1 ~ 2輪咲) 月 日 M1 ICボルドー412 3 kg 33 倍 -	〇コスカシバの発生	Eが多い	園では、フェニックスフロアブ	ル500倍液	夜(200mℓ·月	花期まで)を	地際部から地上	.1m位までの	樹幹および	び主枝に散布する。
開花始め (1~2輪咲) 月 M1 ICボルドー412 3 kg 33 倍 さん 孔 細 菌 病 特 別 防 除 期 間 3 水 展着剤(アピオンE) 100 g 2,000 倍 400 倍 2,000 倍 2,000 倍 2,000 倍 2,000 倍 (アブラムシ) (カメムシ) ハモグリガ (アブラムシ) (カメムシ) ハモグリガ ○予備摘果は出来るだけ早めに始め仕上げ摘果の倍量を残す。 〇ケグレプト水和剤は関花直後のぶどう園の周囲では散布しない。 また、収穫前使用時期・散布回数(2回以内)に注意する。 〇アブラムシの発生が多い園では、ウララDF2,000倍(50g・14日前)を加用する。 月 日 25 アグレプト水和剤 100 g 1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍 2 回以内 2 回以内 2 回以内	2		水	97 ₽			せん孔細菌病			
(1~2輪咲) 月 日 M1 ICボルドー412 3 kg 33 倍 セ ん 孔 細 菌 病 特 別 防 除 期 間 上 ん 孔 細 菌 病 特 別 防 除 期 間 3 水 展着剤(アピオンE) 100 g 5,000 倍 2,000 倍 落花直後 月 日 28 サムコルフロアブル10 フプレプト水和剤 100 g 1,000 倍 20 m² 5,000 倍 350 g 1,000 倍 100 g 1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 7 2 回以内 8 か 日本の 3 か 日本の 4 か 日本の 3 か 日本の 4 か 日本の 3 か 日本の 4 か	 開花始め		展着剤(アビオンE)	50 ml	2,000 倍	350 ₤				ICボルドー412とは混用しない。
さん 孔 細 菌 病 特 別 防 除 期 間 世ん孔細菌病 3 水 展着剤(アピオンE) 100 g 5,000 倍 はん孔細菌病 (アブラムシ) (カメムシ) ハモグリガ 前 日まで 月 日 25 マグレプト水和剤 100 g 1,000 倍 350 g 1,000 倍 1,000 倍 100 g 1,000 倍 1,000 倍 350 g 1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍 1,000 倍 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 7 を加用する。	(1~2輪咲)	M 1	ICボルド―412	3 kg	33 倍			_	_	
3 展着剤(アピオンE) 50 m² 2,000 倍 落花直後 28 サムコルフロアブル10 20 m² 5,000 倍 月 日 25 アグレプト水和剤 100 g 1,000 倍 100 g 1,000 倍 100 g 50 m² 2,000 倍 (アブラムシ) (カメムシ) ハモグリガ 前 日まで 2 回以内 60 日前まで 2 回以内 2 回以内 *** (アブラムシの発生が多い園では、ウララDF2,000倍(50g・14日前) ** (アブラムシの発生が多い園では、ウララフト2,000倍(50g・14日前) ** (アブラムシの発生が多い園では、ウララフト2,000倍(50g・14日前) ** (アブラムシの発生が多い園では、ウララフト2,000倍(50g・14日前) ** (アブラム・アブラム・アブラム・アブラム・アブラム・アブラム・アブラム・アブラム・	せ ん 孔	細菌	有 特別 防	除	期間					
落花直後 28 サムコルフロアブル10 20 ml 5,000 倍 350 l ハモグリガ 向 日まで 2 回以内 のアブラムシの発生が多い園では、ウララDF2,000倍(50g・14日前)を加用する。 月 日 25 アグレプト水和剤 100 g 1,000 倍 1,000 倍 350 l ハモグリガ 向 日前まで 2 回以内 を加用する。	3		水 展着剤(アピオンE)		2,000 倍		(アブラムシ)			〇せん孔細菌病の枝病斑は伝染減になるので早期に剪除する。
月 日 25 アグレプト水和剤 100 g 1,000 倍	落花直後	28	サムコルフロアブル10	20 mℓ	5,000 倍	350 ₽		前 日まで		また、収穫前使用時期・散布回数(2回以内)に注意する。
)コンフューザーMMを120本/10a設置する。	月日	25	アグレプト水和剤	100 g	1,000 倍			60 日前まで	2 回以内	た加田する
	OコンフューザーM									

4 5月中旬		水 展着剤(アピオンE) ⑪デランフロアブル	100 & 50 me	2,000 倍	400 4	黒星病 せん孔細菌病 灰星病 ホモプシス腐敗病 (ハモグリガ)	7 日前まで	4 回以内	○ダニの発生を防ぐためにも新梢および副梢芽掻き処理を行う。 ○疫病の発生予防のため、梅雨前にワラを敷く。 ○芯折れの除去を行う。 ○仕上摘果は、長果枝1~2果、中果枝1果、短果枝6~10本に1果を基準とする。 を散布しても良い。
月日	9 41+25	コルト顆粒水和剤 アグリマイシン100	50 g	2,000 倍 1,500 倍	400 2	(+ /)	前 日まで 60 日前まで	3 回以内	○黒星病の感染最盛期にあたるので、果実を1個1個洗うように散布する。 ○アグリマイシン100は開花直後のぶどう園の周囲では散布しない。 また、収穫前使用時期・散布回数(2回以内)に注意する。
5		水 展着剤(アピオンE)	100 ₽ 50 mℓ	2,000 倍		黒星病 せん孔細菌病 シンクイムシ類			○ウメシロカイガラムシの寄生が多い場合は、アプロードフロアブル1,000倍 (100mℓ・14日前)を加用散布する。 ○⑪デランフロアブルに替えてトレノックスフロアブル500倍(200mℓ・7日前まで)
6月上旬	M9 41	・デランフロアブルマイコシールド	166 mℓ 66 g	600 倍 1,500 倍	500 £	カメムシ類 ハモグリガ アブラムシ類 (ハマキムシ)	7 日前まで 21 日前まで		
月日	4	※ダントツ水溶剤	50 g	2,000 倍		(カイカ・ラムシ) 灰星病 ホモプシス腐敗病		3 回以内	※印の殺虫剤はコンフューザー設置園では削除予定。
6		水 展着剤(マイリノー)	100 g 5 me	20,000 倍		(うどんこ病) 黒星病 灰星病 ホモプシス腐敗病			○6月中下旬は袋掛け時期である。
6月中下旬	M7 28	ベルクートフロアブル サムコルフロアブル10	50 me	2,000 倍 5.000 倍	500 £	せん孔細菌病 (炭疽病)) (疫病)	前日まで前日まで	3 回以内	
月日	41	マイコシールド	66 g	1,500 倍		ハモクリカ	別 口まで21 日前まで		
						(カイガラムシ) (ハダニ類)			

	-	_		1	1 1		n		1	
_			水 展着剤(マイリノー)	100 ₺			灰星病			〇徒長枝の剪定及び捻枝を行い出来るだけ陽を当てて結果枝を作るように
7			展看剤(マイリノー)	5 mℓ	20,000 倍		ホモプシス腐敗病			副梢を利用する。
							(疫病)			〇灰星病は各品種の収穫前、20日間の防除が重要である。
7月 中旬		25	ダニコングフロアブル	50 mℓ	2,000 倍	600 £	(炭疽病) (せん孔細菌病)	前 日まで	1 回	
		3	オーシャインフロアブル	50 mℓ	2,000 倍		シンクイムシ類 ハダニ類	前 日まで	3 回以内	
月日	3 灰星	4	※ダントツ水溶剤	50 g	2,000 倍		ハモグリガ カメムシ	7 日前まで	3 回以内	※印の殺虫剤はコンフューザー設置圏では削除予定。
	病お						アブラムシ			
	ょ						(ハマキムシ)			
	ぴ		水	100 ₽			灰星病			○着色向上のため反射マルチを使用する。
8	腐敗		展着剤(マイリノー)	5 mℓ	20,000 倍		ホモプシス腐敗病			○有袋果実は除袋直後に散布する。
	病						炭疽病			〇収穫期近くに降雨が多い場合は特に灰星病等果実腐敗病に注意し
7月下旬 ~	特別	11	フリントフロアブル25	50 mℓ	2,000 倍	600 l	シンクイムシ類 アザミウマ類	前 日まで	3 回以内	防除を徹底する。
8月上旬(白鳳除袋後) 防除期	3	アーデントフロアブル	50 mℓ	2,000 倍		カメムシ類 (ハダニ類)	前 日まで	3 回以内	
口鳥 你夜夜							(ヤガ類)			
│ 月	間						(ハマキムシ類)			
''' 	•		水	100 ₽			灰星病			○ 白鳳だけでなく着果しているすべての品種に散布する。
特別散布	ī		展着剤(マイリノー)	5 m2	20,000 倍		ホモプシス腐敗病			O MARIAN CO VIDENCE CO O CO MARIA EN TRA INCIDENCE DE COMPANS DE C
14733132 11						600 ℓ				
8月中旬		M7	ベルクートフロアブル	50 mℓ	2.000 倍			前 日まで	3 回以内	
		IVI /	ベルシードンロアンル	30 III	2,000 10			別ロより	3 BWM	
月日	1									
			水 展着剤(マイリノー)	100 ₺			灰星病			〇ハダニの発生が見られる場合は、ダニゲッターフロアブル2,000倍
9			展看剤(マイリノー)	5 mℓ	20,000 倍		ホモプシス腐敗病			(50㎡・前日)を加用散布する。
8月下1	=					600 £	(炭疽病) シンクイムシ類			
(川中島白村		3	オンリーワンフロアブル	50 mℓ	2,000 倍	000 k	(ハダニ類)	前 日まで	3 回以内	
除袋後							ハモグリガ			
Prace	.,	5	ディアナWDG	10 g	10,000 倍		アザミウマ類	前 日まで	2 回以内	
月	日						(ヤガ類)			
			水	97 ₽			(コスカシバ)			〇主幹形仕立てについては、9月上~中旬に必ず秋期剪定を行う。
10		M1	ICボルド―412	3 kg			(ハモグリガ)			〇ハモグリガの発生が多い園ではスミチオン乳剤1,000倍(100㎖・3日前)を
		IVI I	10/N/VIT —412	3 18	33 倍	600 ₺	せん孔細菌病			散布する。葉にも十分散布する。
9月中1	1		展着剤(K.Kステッカー)	33 me	3,000 倍	000 %				
月	日		最後に混用する		-,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					
•		İ	水	97 ₽			せん孔細菌病			〇コスカシバの被害の多い園は収穫終了後にトラサイドA乳剤200倍(500ml)
11		M1	ICボルド―412	3 kg	33 倍		(コスカシバ)			を主幹及び主枝に特別散布する。
 前回散布/	h iz	Wil	10/N/VP412	ا عاد	33 TE	600 ℓ	(ハモグリガ)			
2週間後			展着剤(K.Kステッカー)	33 me	3,000 倍	000 %				
月	日		最後に混用する							
		•	•			•	•	•		